

シンポジウム 2004年インド洋大津波災害とマングローブ林

日時：2005年11月5日〔土〕 13:00-16:30
会場：東京農業大学 世田谷キャンパス

シンポジウム開催趣旨：2004年12月26日発生のマグニチュード9のスマトラ沖地震では大津波が襲い、インド洋沿岸諸国に未曾有の物的、人的被害をもたらした。行方不明者をあわせ22万6000人あまりに達している。これまでサイクロンや高潮などの災害とほとんど無縁であった地域であったこともあり、リゾート観光地など壊滅的な物的被害をも生じた。沿岸に発達するマングローブ林や海岸林も様々な被害状況を示し、一大実験場ともなった。私共はこうした沿岸地域のマングローブ林や海岸林がどのように被災し、また耐え、減衰効果を果たしたのかを検証し、今後同様な災害発生時、人的、物的災害を最小限とする方策を探らねばならない。また、今後どのような研究が求められるのかを見定める必要があります。今回のシンポジウムでは被災国の一つタイからの研究者と現地調査にも参加した日本の研究者らとともに議論を深めたい。

課題説明：佐々木 寧 (シンポジウムコーディネーター)
話題提供：

1. インド洋大津波とマングローブ林が果たした役割—タイ国アングマン海沿岸—
東北学院大学文学部 宮城 豊彦
2. インド洋大津波と海岸林が果たした役割—タイ、スリランカ沿岸—
埼玉大学工学部 佐々木 寧
3. 津波に対するマングローブの力学機能
東海大学海洋学部 松田 義弘
4. Coastal Tsunami Damages and Rehabilitation of Thailand
Dr. Sonjai Havanond
5. Physical Effect of Tsunami in Thailand
Dr. Suwit Ongsom



シンポジウム討論と懇親会の様子